

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
都市部の公園・東部グループ	(指定管理者名) アメニス東部地区グループ
	(団体の概要) 代表団体：株式会社日比谷アメニス
	構成団体：日建総業株式会社
指定期間	
R05.04.01～R10.03.31(5年間)	

2 施設名
猿江恩賜公園、亀戸中央公園、尾久の原公園、東綾瀬公園、中川公園、大島小松川公園、宇喜田公園

3 管理運営の概要
新たな5年間の指定管理期間が始まり、「TOKYO PARK Labo」をテーマ、「パークコミュニティ」をキーワードに、人と公園がつくる地域で東京の魅力を増幅することを管理運営方針として、管理運営を行った。令和5年度はコロナ禍でのスタートだったが、5月連休明け「5類への移行」で緩和され、幼保育園や学校関係の団体集客も見込めるようになった。「都市公園150周年」にあたり、記念事業として「イツマイパークデー」を毎月実施した。5月大島小松川公園風の広場での「行幸対応」においては、多くの打合せを重ねてつつがなく対応できた。7月から11月まで続いた猛暑及び渇水においては落葉樹が葉ぶるいしたり立ち枯れしたり、その後開花するなど、自然の不思議さを垣間見ることが出来たが、植栽管理や清掃、利用案内等での苦労も多かった。各公園において防災や公園利活用をキーワードにして、自治会や関係団体と打合せの場を持ちながら、防災イベントやフェスタを開催した。

4 管理状況（維持管理）
安全管理に重点を置き、各々の作業において危険予知活動を行い、安全パトロールを毎月2公園ずつ、3カ月に1回実施、事故や災害情報をメールや掲示板機能で共有した。重大災害はなく、無事故を維持した。 樹木管理では、増額予算の大径木管理を重点的に実施し、特に東綾瀬公園では利用者要望に対応して、大規模な剪定作業を行った。昨年度から対応しているカシノナガキクイムシやクビアカツヤカミキリに対しては、定期的に巡回点検して、新たな発生を最小限に食い止めるとともに、適切に対応を行っている。カシノナガキクイムシによるナラ枯れが中川公園で30本と大量に発生し、速やかに保全措置を講じた。クビアカツヤカミキリについては大島小松川公園で4本発生、東京都と連携して迅速に対応できた。また継続的に全公園で園路際・樹林地・広場などエリア毎の機能剪定を実施し、季節ごとの花や紅葉を通じた公園の魅力を楽しんでもらった。3Dスキャナを活用した樹木台帳の作成に東綾瀬公園で着手した。ハーブや花を活用した新たな公園の魅力作りを都民協働の下で推し進め、宇喜田公園のハーブガーデンの活動、大島小松川公園自由の広場大花壇での活動、東綾瀬公園でのハーブガーデンでの活動が充実し、公園ならではの魅力を創出した。 施設・設備管理では、平成23年度から12年間蓄積した設備機械台帳のデータを元に計画的に修繕を行い、更なる施設の予防保全、長寿命化に向けた改善を推進した。増額予算の計画的な実施や緊急対応経費による不具合の修繕作業などを実施した。特に猿江恩賜公園、亀戸中央公園のテニスコート照明については適切に対応しており、不具合を未然に防いでいる。 また利用者からの施設や設備の要望にも適切に対応した。大島小松川公園の六価クロムと尾久の原公園のダイオキシンについては、細やかなリスク対応を毎日行っている。結果利用者からのクレームは1件もなく、適切なリスク管理ができている。6月大雨警報の際の夜間パトロール、2月大雪警報の際の除雪による安全確保とスポーツ施設の早期稼働にしっかりと対応した。 東京都が取り組んでいる「再生エネルギーの利用を推進する」ため、電力供給先を変更し、「都立公園初の再生可能エネルギー100%の電力による公園管理運営」を継続している。電力料金の高騰に予算が圧迫されているが、職員が電力削減に努めている。

5 利用者アンケート結果						
実施方法：						
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応	
猿江恩賜公園	4.7	4.5	3.9	4.3	4.5	
亀戸中央公園	4.6	4.5	4.0	4.3	4.4	
尾久の原公園	4.7	4.7	4.4	4.8	4.6	
東綾瀬公園	4.7	4.6	4.2	4.6	4.6	
中川公園	4.6	4.6	4.2	4.6	4.7	
大島小松川公園	4.8	4.7	3.9	4.5	4.6	
宇喜田公園	4.6	4.5	4.1	4.2	4.2	

6 入園者数の状況（単位：人）		
施設名	当該年度	分析
猿江恩賜公園	1,566,896	江東区子ども祭りの再開、スポーツ施設の利用増、南園工事完了で増加した。
亀戸中央公園	1,656,596	イベント数は増えたが利用者増には寄与せず。スポーツ施設利用も微減。
尾久の原公園	890,785	日常使いの利用者が多く天候による影響がに大きく影響している。
東綾瀬公園	2,853,722	近場での利用者が多く、またテニスコートリニューアルで利用者増となった。
中川公園	849,979	A地区2階工事により、利用者減少となっている。イベントリピーターは増加中。
大島小松川公園	1,422,210	LED工事が5月までかかり、利用者減。団体利用が増え、利用者増となった。
宇喜田公園	651,975	ほぼ同数、横這い。コロナは収束したが危険レベルの猛暑で利用者減となった。
合 計	9,892,163	

科学技術高校カメラ設置と蜂宿調査

自然とのふれあいと魅力の発信



自然とのふれあい、緑や生きものの価値の再発見

■自然とのふれあい

桜や来園者、ボランティアと植え付けたチューリップなど四季の自然や公園に棲む魚類の展示など四季を楽しんでいただいている。



中央広場の桜



学習水槽での魚類展示



チューリップの杜とフェスタコンサート



■自然観察会

新緑、セミの羽化観察会、落葉樹、秋の花、冬芽など毎月テーマを決めて、専門講師によるレクチャーを公園を巡りながら開催している。毎回20名近くの参加者があり、公園の自然の魅力向上につながっている。また参加者から賞賛の言葉をいただいている。



自然観察会の様子

地域とのつながりと更なる発展



近隣自治会、地元自治体、NPO法人、学校、企業との関係強化

■毛利小学校との関係強化

年間を通じて、植付けと収穫、課外授業など子供たちが自然に触れ合える、考える機会を提供、また今年は都市公園制度制定150周年事業として「150体の森の化身」と題し公園と学校と協働で公園内を飾った。



イモの植付け収穫作業



稲の植付け収穫作業



都立公園150周年事業
「150体の森の化身」

■各種団体との関係強化

自治会、消防署との消防訓練や職場体験受け入れ、パークミーティング開催など各種団体との関係を一層強めることができた。



防災訓練



パークミーティング



深川第四中学校職場体験



東京農業大学樹木調査

安心安全な公園づくり



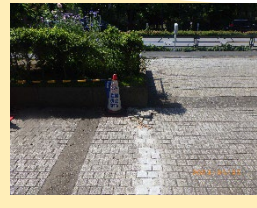
安心安全な公園運営のための植栽管理及び施設修繕

■安全目線の植栽管理及び施設修繕

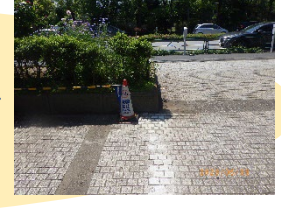
利用者の安全確保を第一として、継続的に植栽管理及び施設修繕を行った。



道路越境枝の剪定



園路段差等の補修



亀戸中央公園

都会でみどりが学べる公園

遊びキャラバンの開催

自然とふれあう公園づくり

防災機能を強化・充実した公園

サザンカの名所の復元



遊びキャラバンの開催



子どもの創造の力をかきたてるイベントの提供

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、今まで縮小ムードだったイベントも完全に復活した。遊びキャラバンでは公園にある素材を中心に工作をするといった子どもたちの創造力をかきたてるイベントを実施した。特に竹ぽっくりや水鉄砲といった昭和レトロの企画が好評を博した。



遊びキャラバン
「こいのぼりを作ろう！」



遊びキャラバン
「竹で水鉄砲を作ろう！」



遊びキャラバン
「竹ぽっくりを作ろう！」



遊びキャラバン
「Xmasリースを作ろう！」



自然観察会
「セミの羽化」



自然観察会
「サザンカガイドツアー」

また自然観察会を定期的に行き、ファミリー層へ訴求したと共に、大人の高度なニーズにもかなった会を実施した。

自然とふれあう公園づくり



サツキ迷路やバグズガーデンの充実

安心・安全に楽しく過ごせる公園にすべく、サツキの生垣で迷路を作り、いつでもお子様が遊べるエリアを設置した。一方でバグズガーデンというミニビオトープ作りを行い、インセクトホテルやバタフライブッシュの作成にいそしみ子どもが昆虫に親しむ環境を作った。



サツキ迷路



インセクトホテル



バタフライブッシュ

防災機能を強化・充実した公園



近隣住民と一緒に防災訓練の実施、恒例化へ

毎年近隣の町会やマンションの自治体を中心に消防署の協力のもと、避難訓練を実施している。当園では簡易トイレ、かまどベンチの設置等の演習を実施した。500名ほどの参加者となった。特にここ数年大型地震が頻発しているため、参加者は自分ごととして捉えて参加していた。令和6年度も実施を予定している。



当園 A 地区の集合場所



起震車による実演



担架による実演



手押しポンプによる実演



簡易トイレの設置

サザンカの名所の復元

無償提供をされた挿し穂を育成しサザンカロードを構築

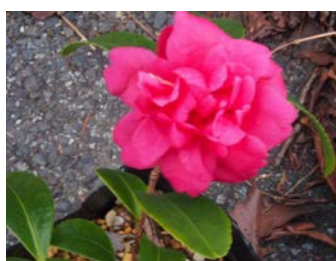
日本ツバキ協会より無償提供された挿し穂を当園のバックヤードで育成を行い、サザンカロードへの移植を行った。開園当初の50品種のサザンカが減少していった経緯を踏まえ、これを復元し、育成することで元の50の品種保全に繋げた。

公園全体では50品種4,000本のサザンカがあり、10月下旬より2月まで次々に花を咲かせて来園者の目を楽しませている。サザンカは手間がかかる植物で、年間を通してチャドクガの捕殺や、もち病の対策を講じている。

これらの情報については、Webサイトに於いてサザンカマップの更新や随時開花情報を掲載することで、情報発信力の強化を図り、集客へとつなげた。



サザンカロード



新種のサザンカ



チャドクガの捕殺



Web掲載のサザンカマップ

尾久の原公園

水辺のいきものとふれあえる街中公園

地域コミュニティの核となる公園へ

自然との出会いと発見の場として

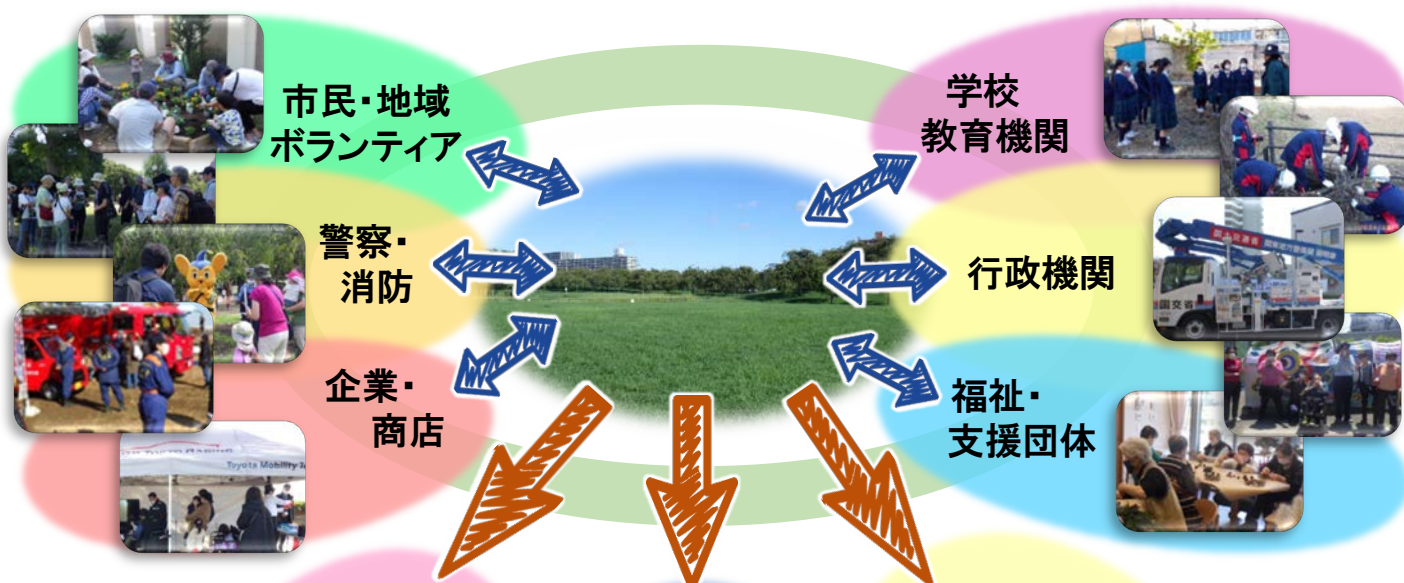
2023年に開園30周年を迎えて



地域コミュニティの核となる公園へ



地域で活動する人や団体と公園とのつながりは、独自の地域コミュニティ構築へと発展し、公園は多様な人や活動が交わる場所として、様々な企画や取り組みを実現させた。



【季節の展示】

【季節のフェスタ】

【park : motto】



季節ごとのイベントをテーマに地域の方々とともに制作したオブジェを園内に展示。多くの方々が参加し見学に訪れる人気のスポットとなった。



アートや防災、スポーツなどのテーマを設け地域の方々と一緒に作り上げたフェスタ。多様な方々とのつながりの中で、全員が主体となる場になった。



地域をつなぐ出店イベント。公園に売店やキッチンカーのある風景をと、地元の小規模店舗を中心とした出店者たちと、毎月一回の定期開催を実現した。

自然との出会いと発見の場として



豊かな水辺環境と生物多様性保全の維持管理



湿地の中を段階的にゾーンに分け、刈り高を調整しながら刈り残し箇所も設定。生き物や植物の生息・生育環境の保全に努めた。



絶滅危惧Ⅱ類 タコノアシ

刈り残しや刈草の移動による生育環境の改善で、希少種タコノアシの個体数が増加。20㎡に及ぶ新たな群落を形成した。



絶滅危惧Ⅱ類 チョウトンボ

開放水面の維持を目的に、通年で取り組んだトンボ池のヨシ刈りによって、トンボの個体数が増加。地元ケーブルテレビでも紹介された。



絶滅危惧ⅠB類 マツカサスギ

絶滅危惧Ⅱ類 ミゾコウジュ

ミゾコウジュのほか、ミコシガヤ、マツカサスギなどの希少植物を新たに確認。生育地を常に把握し、その環境維持に努めた。

※東京都レッドデータブック2023による

出会いと発見の場



水辺とはらっぱの境界に設けた刈り残し「虫の王国」は生き物の推移帯！多くの利用者たちにとって小さな生き物たちとの出会いとふれあいの場となった。



荒川区環境課との連携による自然観察会を毎月実施。毎回テーマを設けて行われる観察会は、利用者にも好評。参加者の生き物への興味をかきたてた。

自然観察会スピンオフ企画

【尾久の原ヒーローズ】

園内の植物や生き物の発見・報告により、オリジナルのトレーディングカードがもらえる企画。16種類のカードは参加者たちを夢中にさせた。

【尾久の原バウンティハンター】

園内や区内での確認が少ない生き物を探す企画。達成者には特製缶バッジが贈られる。開催期間中は「ハンター」たちで園内が賑わった。



2023年に開園から30年を迎え



【開園30周年記念企画】

荒川区社会福祉協議会との連携による30周年記念企画を区内の「ゆいの森ホール」で実施。トークイベントでは公園の歴史に触れながら、公園の価値・意義・魅力をアピールし、多くの方々から共感の声をもらった。



【ロゴマーク募集】

大手公募雑誌のサイトでも募集。全国から25作品が集まった。



【公園の記事 掲載】

開園30周年に際した記事を雑誌「都市公園」に寄稿。公園の取り組みをアピールした。



東綾瀬公園

緑の中でからだ動かす多世代交流公園

住宅地の総合公園としての樹木管理

スポーツによる健康づくりのための環境整備

街中公園としてのパートナーシップ拡充

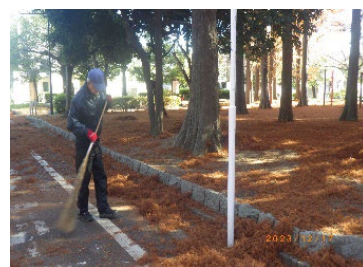
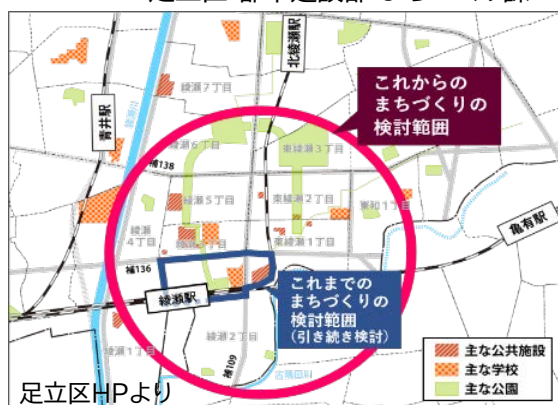


住宅地の総合公園としての樹木管理



足立区では「綾瀬駅東口周辺地区 地区まちづくり計画」と「北綾瀬駅周辺地区地区計画」がスタートし、新築住宅やマンションの増加が予測されるとともに多世代化が促進されると思われる。現状でも園路は通勤、通学の経路としての利用者が多く、公園を仕切る区道も交通量が増えている。公園は近隣住人の生活地域の一部としてより一層の安全・安心確保に取組みながら住民や団体との協力を推進する。

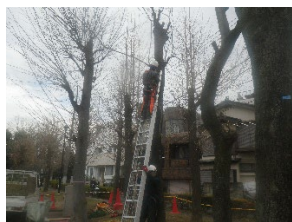
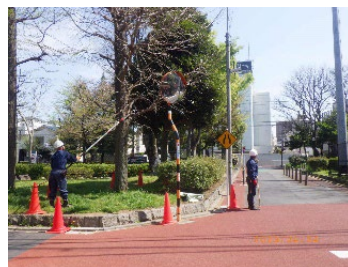
「綾瀬駅東口周辺地区 地区まちづくり計画」
足立区 都市建設部 まちづくり課



通行者の安全確保
通勤・通学経路として利用頻度の高い園路や区道を重点的に清掃し利用者の通行しやすい環境を整備



駅前再開発工事前にプランターの整理
綾瀬駅再開発開始前にボランティアと共同でTS地区にある50個のプランターにある花苗植え替えや土の抜き取り作業、破損プランターの入れ替え作業を行う



車や自転車の安全確保
カーブミラーや曲がり角の見通し障害、区道上に伸びる樹木を適切に剪定し交通環境を整備



高圧電線を囲う安全柵周りの高木剪定

住民要望で日当たりを阻害する高木を剪定

区道沿いには高木や低木も多く巡回による障害個所の把握と対処を進めている。また住民からの要望として日照の確保や落葉の散乱についても対応している。今後も住宅地の総合公園として足立区の「地区まちづくり計画」と連動した緑豊かな近隣住民の住みやすい公園環境づくりを推進する。

スポーツによる健康づくりのための環境整備



公園のスポーツ施設や運動広場などスポーツを快適で安全に楽しめるように整備をする。また住民からの要望を受けて野球場の土埃が住宅に飛ばないように防砂ネットや新たな遊具の設置を行う。近隣の学校や保育園の課外授業として遠足や持久走などで公園利用時に事前に落葉清掃や不陸修繕を行う。



学校や団体が主催する催しの円滑運営を後押しする

街中の公園としてのパートナーシップの充実



近隣住民が気軽に参加できる多世代交流イベントの開催。足立区や周辺町内会、園内にある施設管理者とのイベント協賛を通じてパートナーシップを高めた。住人参加の花壇づくりや園内清掃は公園ボランティア活動の輪を広げた。



季節ごとのイベント開催
「オータムフェスタ」や「防災フェスタ」は数百名の家族連れやご老人が参加し多世代交流の場となった。



区や各町内会催事に協賛
コロナ後初の開催となる「しょうぶまつり」や納涼祭り等が相次いで開催され、区や町内会と安全運営の連携を図った。



園内施設管理者との連携
東京武道館の「武道・スポーツフェスティバル2023」、すいすいランドの「水害訓練」などにも参加。連携を強化した。



ボランティア活動の充実
ボランティアによるイベントにも多くの人が参加した。また公園主催イベントにも積極的に参加。交流の後押しをした。



中川公園

地域にとけこむふれあい公園

公園を楽しむ機会の提供

公園と地域の繋がり

花あふれ、綺麗な公園へ



公園を楽しむ機会の提供



公園由来の材料で楽しむ

■ ドングリや松ぼっくりなど公園で手に入る自然の物を使用した工作イベントを実施9種類の工作で計161名の方に参加いただいた。



オリジナル展示で楽しむ



■ サービスセンターを身近に感じていただき、利用者に楽しんでいただけるように記念となる顔出しパネルを年間を通して13回更新、毎回楽しみにしていただくファンも増えてきた。

季節を感じる装飾で楽しむ

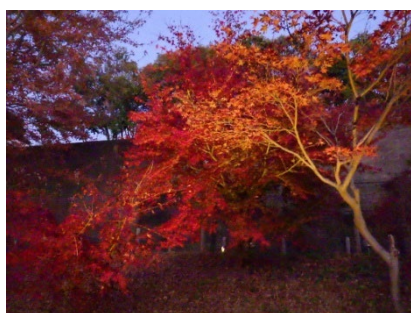
■ 四季折々を象徴するイベント装飾実施、利用者に見て、参加して楽しんでいただいた。こいのぼりはイベント参加者に作成して頂いたものを、七夕は願いを託した短冊、ハロウィンでは装飾の一部を作成展示した。今年は初めてもみじのライトアップを実施した。



コスプレで来園した利用者とお化けカボチャ



大空を泳ぐオリジナルこいのぼり



もみじのライトアップ



七夕飾り



クリスマス装飾

公園と地域との繋がり



■地域包括支援センターから近隣の足立区立東和親水公園のボランティア団体で同じような工作イベントを開催したいので協力して欲しいとの依頼を受け、地元自治会も協力の上、**イベント講師**として参加。地域との新たな繋がりを構築することができた。



とっても楽しめました！
完成したリースを手に皆で記念撮影



講師と説明する職員



リース作りを指導する職員

七夕飾りには
昨年の**5.5倍、376人**が参加！



■公園だけではなく地域で楽しむ行事としてURや大谷田一丁目団地一丁目自治会等と協力して行い地域で楽しむことができた七夕飾り。



受講1回目は座学



実技では警察官も一緒に

■地域包括支援センターとの繋がりで近隣の大谷田一丁目団地の方々と2回にわたり受講した認知症サポーター講座。警察官も含めた実技研修も行った。

花あふれ、綺麗な公園へ



日々の植栽管理により四季折々の花を楽しむ環境を整備！

■日々の管理により充実した樹木やたくさんの樹々草花を利用者に見ていただいた。年間を通して多くの激励・感謝をいただいた。



■利用者の皆様に快適にトイレを利用していただくため、ハエ除けのトンボイラストやセンターで採取したラベンダー等を設置。



ハエ除けに成功！

■年間を通してトップライト撤去工事が行われているが、問題なく利用していただけよう対応に尽力した結果、アンケートの総合満足度は低下することなく基準以上を維持した。

小学校の持久走大会も利用場所を調整し無事開催された。▶



大島小松川公園

自然を肌で感じるアクティブパーク

地域との協働・関係機関との連携強化

課題解決に向けた新たな取り組み

六価クロム対策の徹底



地域との協働・関係機関との連携強化



関係機関（消防署・警察署・区役所等）や地域組織と連携した防災プログラムの実施。地域イベントへの参加や近隣小中学校の職場体験（キャリア教育）の受け入れによる連携強化

防災プログラムの拡充

今年度は7/22「まちかど防災」、9/10「秋の火災予防フェア」、12/9「育樹大会に合わせた防災施設（防災トイレ）の案内・説明」、3/2「春の火災予防フェア」の4日間に拡充し、近隣住民を中心とした参加者の防災意欲の向上を図った。



まちかど防災



秋フェス

地域イベントへの参加

9/16に季節の広場南で開催された地域イベント「まつりだワッショイ」に公園として出店し、地域コミュニティの醸成に寄与した。



育樹大会



春フェス



まつりだワッショイ

職場体験（キャリア教育）の受け入れ

11月に中学生、1月と2月に小学生の職場体験を受け入れた。植栽管理（低木剪定・落葉清掃）やミックス巡回等を体験してもらい、地域における公園が担う役割と将来に向けた仕事に対する姿勢への理解を深めてもらう機会となった。なお、小学生の職場体験は江東区のケーブルテレビにて紹介された。



職場体験

（江東区立亀戸中学校）



職場体験

（江東区立第三大島小学校）



課題解決に向けた新たな取り組み



近隣町会・自治会の方々から公園に係る諸課題についてご意見・ご協力をいただきながら、課題解決に向けた新たな取り組みとして「パークミーティング（意見交換会）」を開催

パークミーティング（意見交換会）の開催・初心者向けスケートボード体験会の開催

令和3年度に始まった「パークミーティング（意見交換会）」も3年目を迎えた。これまでと同様に、近隣町会・自治会の方々から公園に係る諸課題についてご意見・ご協力をいただきながら、課題解決に向けた取り組みを継続しており、令和5年度は3回開催した。

近隣の町会長・自治会長の参加を得て、多岐にわたる課題の共有を図るとともに、今年度も引き続き「公園内におけるスケートボード利用と騒音問題等」をクローズアップし、初心者向け体験会を開催した。

体験会は4月以降11回開催、延べ107名が参加した実績を踏まえ、体験会を主催している愛好会と相互に意見や提案等を交換することと並行して本意見交換会を開催し、活発かつ多様なご意見を伺うことができた。

今後、本会議のさらなる充実を目指して、新たに小学生がいる保護者の参加を求めて行く予定としており、近隣住民の方々との協働とともに、管理運営・利用促進のステップアップに繋げていきたい。



パークミーティング



初心者向け
スケートボード体験会の開催

六価クロム対策の徹底



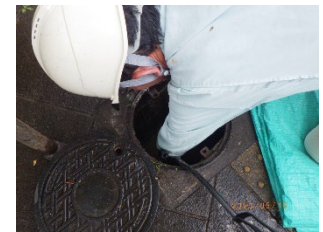
安心・清潔な公園づくりの一環として六価クロム滲出現場の点検、洗浄、還元処理、滲出対策工事の実施

3人体制で毎日4回の点検

巡回員2名と責任者1名で毎日午前2回、午後2回の合わせて1日4回の点検。必要に応じて水洗いや還元剤散布を行っている。



点検



還元剤散布

高圧洗浄

汚染水は地下の有孔管に流れ込んで還元処理施設に導かれるため、状況を見て有孔管やINの管を高圧洗浄する。



接続桝の浚渫



有孔管の
高圧洗浄



北側処理施設
高圧洗浄

宇喜田公園

人と街を緑でつなぐ公園

ハーブガーデンの拡充 園内施設の点検強化 江戸川区との連携



ハーブガーデンの拡充



■ハーブガーデンは宇喜田公園の象徴に

平成29年4月より発足したボランティア団体の定期活動を毎週水曜に継続実施。花壇は年々グレードアップが進み、今や園内で最も注目を集める場所に変貌した。

当年も6月に見ごろを迎えたラベンダーは、ボランティア会員が摘み取り、公園利用者に配布した他、近隣の病院、保育園、介護施設へも持参した。当年も配布日には大勢の近隣居住者が列を成し、賑わいを創出。また当年は日本テレビの番組が当ガーデンを紹介し、ハーブガーデンの知名度が更に向上した。



ボランティア活動中の1枚。当年4月、新たな魅力作りの為、スパイラル花壇を自分達で施工。チームワークが素晴らしい。

■ラベンダーは挿し芽で増殖

ラベンダーは外部から株を購入せず、挿し芽育成にて増殖。初年度のみ20株を購入し、その後は挿し芽育成にて、7年間で約700株まで増殖した。お金を掛けず、地道に育成増殖する姿勢は地域から好評を得ている。

またラベンダーの挿し芽は、希望する他の現場にも提供を実施。教えを求む方にも指導を実施。共に楽しむ、輪を広げる思想にて門戸を開放中。



東葛西住宅にラベンダーの苗を提供。



ラベンダーの挿し芽育成。この日は他園の職員も参加。

■配布箱（愛称）

当年も時折、現場で咲き誇った花、料理や美容に使える香草を幾度も配布。ハーブの魅力を伝えると同時に、地域への還元に努めた。



9月、オレガノを配布。「トマトとオリーブ油と一緒に」と案内。



9月、アメジストセージを配布。「ドライフラワーにお勧め」と案内。

■ハーブ教室の再開

当年はコロナで中断していたハーブ教室を再開した。ボランティア会員が講師役となり、ハーブの愛好家を募り、ハーブの素晴らしさを伝えた。



3月、育成したローズマリーを用いて、「ローズマリー教室」を開催。ハーブの楽しさを分かち合った。



園内施設の点検強化

■都立宇喜田公園防災フェアの実施

- ・前年に続き当年も6月と10月に、当園にて「都立宇喜田公園防災フェア」を主催した。防災をテーマに、近隣の町会と病院と、消防署と江戸川区と手を組み開催した。
- ・前年より地域に当園が一次避難所の役割を持っている事を伝える為、備わっている防災施設を今一度見直して頂く為に企画し、地域に呼び掛け開催した。当年のフェアは施設の展示紹介のみで無く、実際に触れる、使って頂く事に重きを置いた。
- ・防災施設の自主点検は毎月1回以上を継続。防災施設は常時利用が可能な状態を維持し、この1年でも有事の対応に備えた。



防災トイレ、施設展示



消防隊員、放水演習



区民消防隊、放水体験



防災井戸、利用体験



消防隊員、AED講習



釜戸ベンチ、炊き出し



消火器体験コーナー



最新救急車、内覧体験

江戸川区との連携



■運動施設の共同管理

- ・運動施設の管理は、利用調整を江戸川区、現場の維持管理を宇喜田公園で担っており、安心・安全を第一に連携強化を図っている。
- ・当年は10月から江戸川区立葛西第2中学校の体育の授業が宇喜田公園の運動施設内で行われている。江戸川区立葛西第2中学校の校舎の建て替え工事に伴い、校庭が利用出来なくなった為、施設の利活用に至った。

■連携強化

- ・江戸川区には運動施設の他、区の行事の場所提供にも協力している。共に職員が現場に常駐できないという現状を補い、利用者からの高い満足度を得るべく、相互協力に取り組んだ。



運動施設、利用状況。



場所提供その1。 区立葛西第2中学の体育の授業。



場所提供その2。 区の狂犬病予防注射の接種会場として。



場所提供その3 区の防犯行事の会場として。

収支状況

3 収支(単位:千円)					
		令和5年度	令和4年度	令和3年度	公園別支出額
項目		金額	金額	金額	
収入 計		682,887	669,561	654,139	猿江恩賜公園 127,108
内訳	指定管理料	682,887	669,561	654,139	亀戸中央公園 91,619
	利用料金	0	0	0	尾久の原公園 46,174
	その他収入	0	0	0	東綾瀬公園 157,802
支出 計		682,887	669,561	654,139	中川公園 60,341
収支差		0	0	0	大島小松川公園 164,971
					宇喜田公園 34,872